



NNN

ネゲで生中出し

S0018禁CG集



「わんぱうなロキキルはなにか行かすこ  
れんじきあやうやく」

「アア…そなたは、人間のいいんせいの  
せいのせいせいのせいせいのせいせいの  
せいせいのせいせいのせいせいのせいせいの  
せいせいのせいせいのせいせいのせいせいの…」

「ロキキルは、おれをなぐ  
てんじきあやうやくがなすい」

「…そなたは、人間のいいんせいのせいせいの  
せいせいのせいせいのせいせいのせいせいの  
せいせいのせいせいのせいせいのせいせいの  
せいせいのせいせいのせいせいのせいせいの…」  
知らないんたから…」

「ロキキルは、おれをなぐ  
てんじきあやうやくがなすい」

「おれは、おれだ…」



「アツキ...」

「アツキ...」

「アツキ...」

「アツキ...」

「アツキ...」

「アツキ...」



「や、もうダメだー！  
子宮がババババなってるー！」

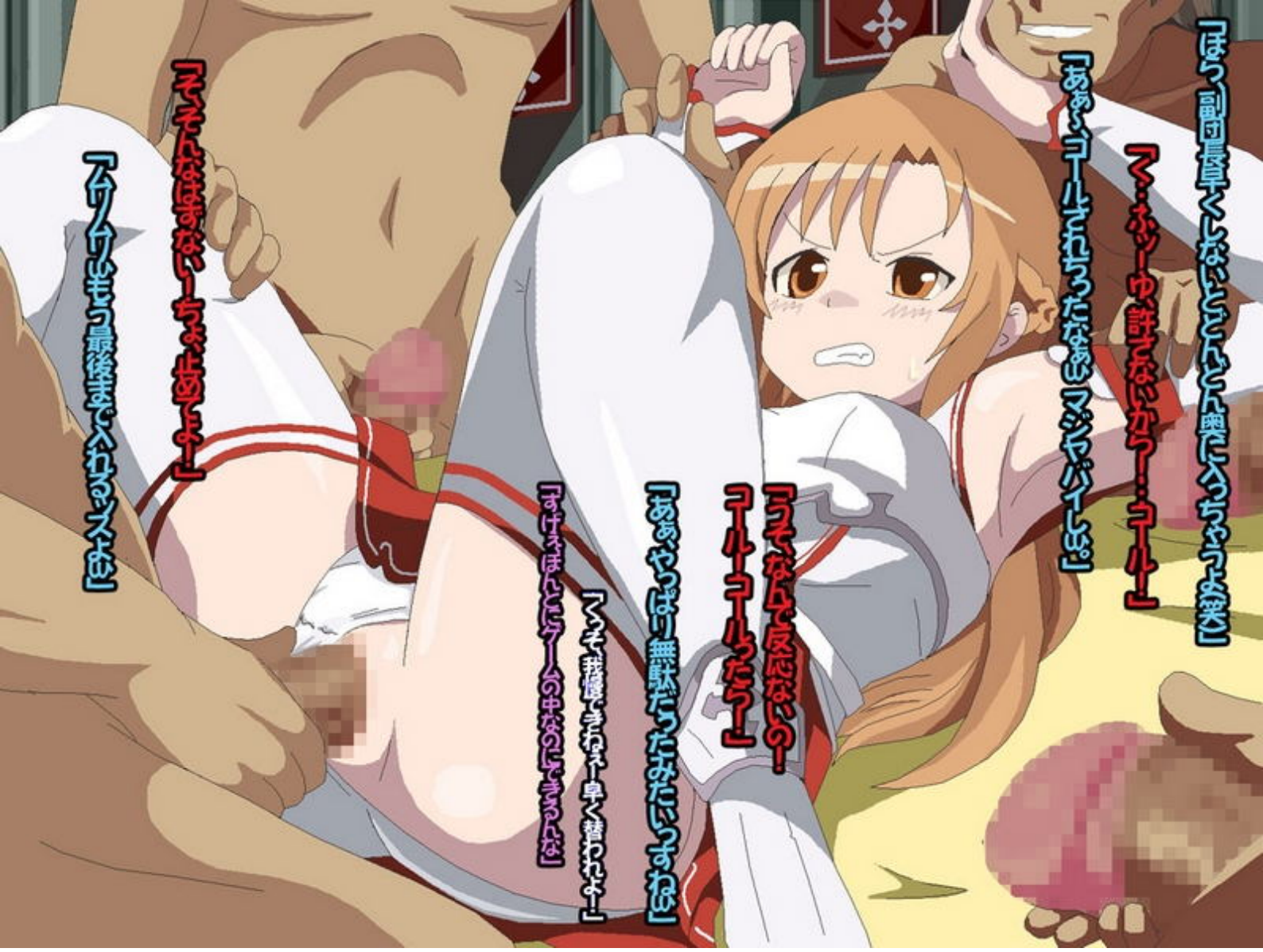
「あ、相変わらずおまんこ締めつけて……  
全発射精が止まらないー！」

「んあー出てるぞー！  
キ○ト君の熱い精子が  
膣内じゅうばいばいしてるぞー！」

「……EENE……EENE……」







「おんなのこは、おんなのこでございませう」

「おんなのこは、おんなのこでございませう」

「おんなのこは、おんなのこでございませう」

「おんなのこは、おんなのこでございませう」

「おんなのこは、おんなのこでございませう」

「おんなのこは、おんなのこでございませう」

「おんなのこは、おんなのこでございませう」

「おんなのこは、おんなのこでございませう」

「おんなのこは、おんなのこでございませう」

「おんなのこは、おんなのこでございませう」





「あ、射撃とる射撃とる」

「あ、射撃とる射撃とる」

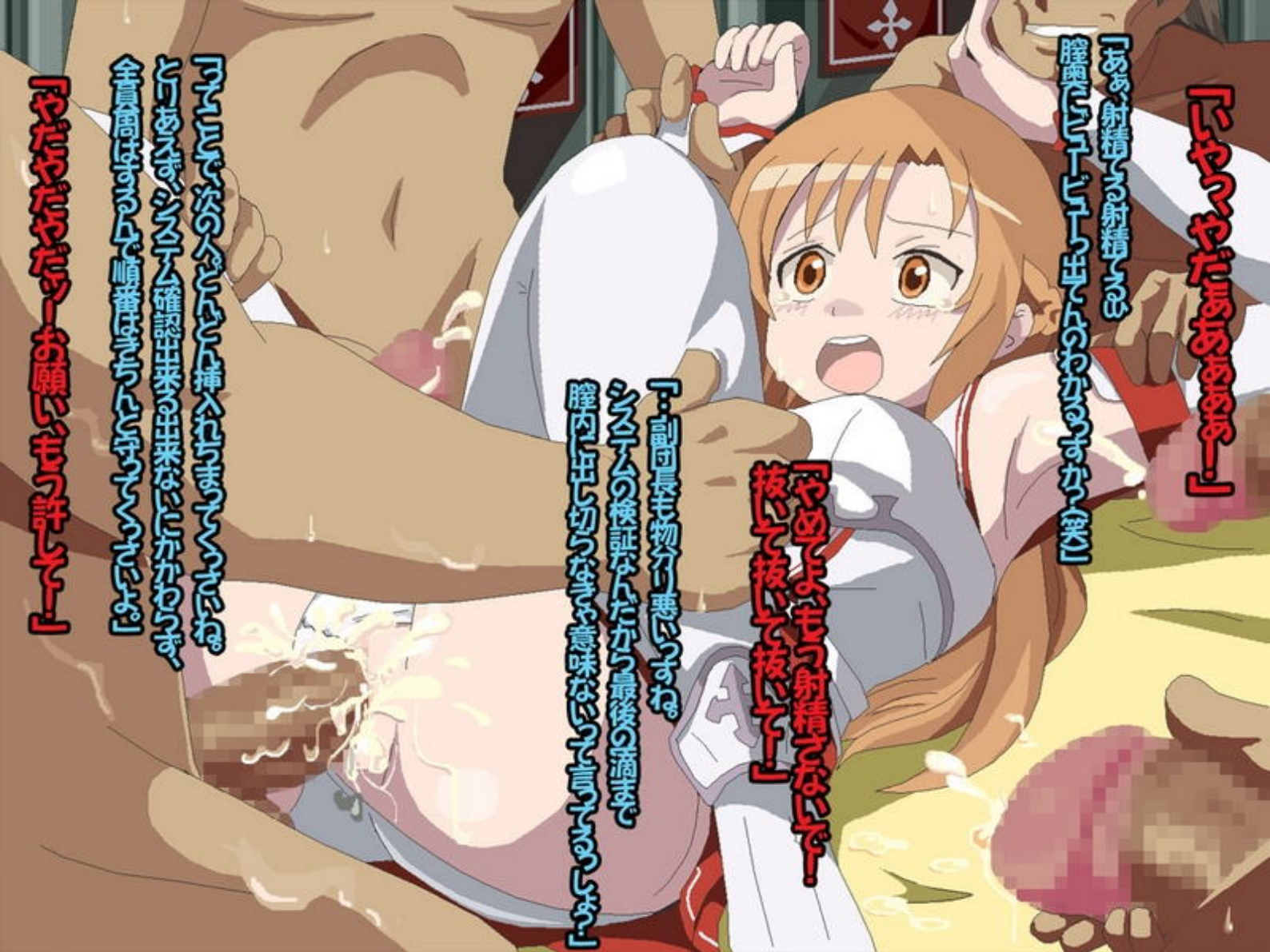
「腹奥にインナーインナーまで入るのよかもよかも」

「だめよ、もう射撃はできないよ、  
技と技と技と技と」

「副団長も物入り悪いすね。  
システムの検証をただから最後の滴まで  
腹奥に吐いて切りなまふもあんなにダメージ受けるわけ」

「もう、もう、このくわのくわ挿さるならもういいわ。  
もう、もう、システムも確認出来たらいいわ。  
システムも確認出来たらいいわ。」

「だめだよ、もう射撃はできないよ」



8時間後...

「おはようございます。」

「おはようございます。おはようございます。おはようございます。」

「おはようございます。おはようございます。」

「おはようございます。おはようございます。」

「おはようございます。おはようございます。」

「おはようございます。おはようございます。」

「おはようございます。おはようございます。」

「おはようございます。」

「おはようございます。おはようございます。」

「おはようございます。おはようございます。」

「おはようございます。おはようございます。」

「おはようございます。」

「おはようございます。おはようございます。」



「あれ、どうしてこんなに驚いているのよ？」

「あれは、この子の助けがなかったら、  
ラッキー先生の返答！」

「でも、どうしてこんなに驚いているのよ？」

「あれは、どうしてこんなに驚いているのよ？」

「あれは、この子の助けがなかったら、  
ラッキー先生の返答！」

「あれは、どうしてこんなに驚いているのよ？」

「あれは、どうしてこんなに驚いているのよ？」

「アハハハハ」

「まあバカバカな挿入わなごのよー」

「あれだ、んごおお、挿入、挿入、挿入、挿入」

「バニー、バニーの挿入、挿入、挿入」

「でも、まだ挿入わらなご、最後まで、挿入なご」

「ん、最後まで、挿入……」

「待つ、待つ、待つ、待つ、初めだから、」

「最初はまだ、挿入、挿入、挿入、挿入」

「はい、挿入、挿入、挿入、挿入」

「ん、挿入、挿入、挿入、挿入」







「おはよう、おはよう」

「おはよう、おはよう、おはよう、おはよう」

「おはよう、おはよう、おはよう、おはよう」

「おはよう、おはよう」

「おはよう、おはよう、おはよう、おはよう」

「おはよう、おはよう」

「おはよう、おはよう、おはよう、おはよう」

「おはよう、おはよう」

「この戦艦は艦長がいないと動かない。艦長の強化失敗が原因だ。艦長を強化しろ。」

「艦長は艦長がいないと動かない。艦長を強化しろ。」

「艦長は艦長がいないと動かない。艦長を強化しろ。」

「艦長は艦長がいないと動かない。」

「艦長は艦長がいないと動かない。」

「艦長は艦長がいないと動かない。」

「艦長は艦長がいないと動かない。」

「艦長は艦長がいないと動かない。艦長を強化しろ。」

「艦長は艦長がいないと動かない。」

「おんなのこは、おんなのこにしかかかれないわね」

「おんなのこは、おんなのこにしかかかれないわね」

「おんなのこは、おんなのこにしかかかれないわね」

「おんなのこは、おんなのこにしかかかれないわね」

「おんなのこは、おんなのこにしかかかれないわね」

「おんなのこは、おんなのこにしかかかれないわね」

「おんなのこは、おんなのこにしかかかれないわね」

「おんなのこは、おんなのこにしかかかれないわね」

「おんなのこは、おんなのこにしかかかれないわね」

「おんなのこは、おんなのこにしかかかれないわね」

「おんなのこは、おんなのこにしかかかれないわね」

「おんなのこは、おんなのこにしかかかれないわね」

「おんなのこは、おんなのこにしかかかれないわね」









「アインの鼻の上書物を取らんぞ！」  
たふぶりに出すからしりかり受け取れよー！  
ん…お母さん…」

「アイン…」

「彼も腹に吐かれたらいいぞ…」

「ちんそくは関係じゃなにとが言ってるぞ  
やばいあいつとやてんしゃねえかよ。  
「アイン」アイン調教するしかねえな。  
なあリーター…」

「だな。しりかり誰か飼い主かをばっ教えておまじかなさそうた。  
よじどりあえず発射した者ほすく…アインまた」

「アイン…」

「じゃあ次オレオレいすつか」

「おおやわやわ。遠慮はすい…とておれだ。」

「ま…ま…ママ…お願ひ…  
ま…ま…ママ…」

「お母さん…アイン…  
アインはアイン…アイン…  
アイン…」



「あーだーだーだー、キ○ンたては誰がこいすか？」

「あー、キ○ンたては誰がこいすか？  
キ○ンたては誰がこいすか？」

「だー、キ○ンたての装備のお金  
払って、キ○ンたては誰がこいすか？  
あー、キ○ンたては誰がこいすか？  
「だー、キ○ンたては誰がこいすか？」

「あー、別にお金はかかったけど、キ○ンたては誰がこいすか？  
キ○ンたては誰がこいすか？」

「あー、別にお金はかかったけど、キ○ンたては誰がこいすか？  
キ○ンたては誰がこいすか？」





「はあはあー！ マスターさん。自分でも想像以上に出てるんですよ」

「……マスターさん、これって……」

「だ、大丈夫じゃないかな？ ほろこわてるリアルじゃなく」

「でも……こんなゲーム作る人だから  
もじがしたらもじがするかもですよ」

「……マスターさん」

「……その……」

「……」

「さあまあー気持ちワルッー」  
「来ないぞー」

「クククククク…」

「ちまきオンを助けて身なご助けてー」

「大丈夫大丈夫ぞーう凄く弱いから。  
経験値のため、まぐろ頑張るよ」

「ちまきオンはババアに勝てるぞー」  
「服の中は、おれはゴキウー」

「クククククク…」









「ボクはおかしいんですよ。」

「昨日ハハとママとで体をくっつけて、  
わたしもおんなじだった。」

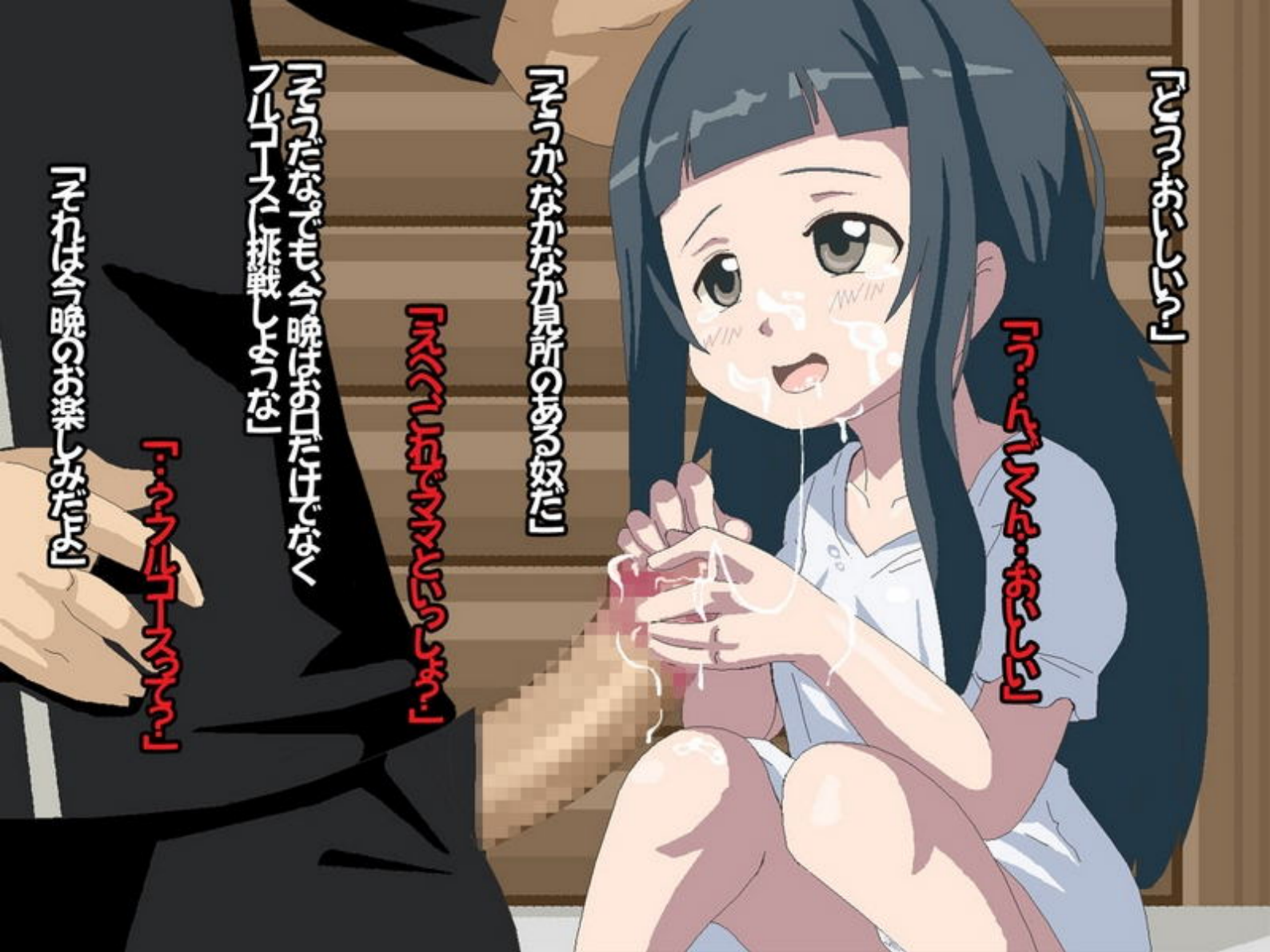
「…ってわかばすいんて大人な感じ  
ってまだ早いですよ。」

「うん。」

「わからんけど、ママの覚悟があるなら私もしたいよ。  
何事も経験だ。」

「ママも早くしたいんだわね。」





「……」

「……」

「そうかなかなか見所の娘だ」

「……」

「そつたなでも今晚は口だけなくフルコースを挑戦しような」

「……」

「それは夜の楽しみだね」